

UNFCCC 第24回補助機関会合・アドホックワーキンググループ

ハイライト

2006年5月25日 木曜日

SBIは木曜、プレナリーで再度会合を行って作業を完了し、今次会合の報告書を採用した。SBSTAも会合を行い、手法問題、研究・系統的観測、途上国の森林減少による排出量の削減など、多くの議題に係わる結論書や決定書草案を採用した。一方、適応に関する5カ年作業計画に関する討議は、引き続き木曜夜まで行われ、金曜のSBSTAプレナリーでの議題として取り上げられることになった。アドホックワーキンググループ(AWG)については、長時間に及ぶ非公式協議で“今後の作業計画”をとりまとめた文書が合意され、木曜深夜に作業終了となった。

実施に関する補助機関 (SBI)

事務管理、資金、組織・制度に関する問題: SBIのBecker議長が作成した2006-2007年の2カ年予算収支に関するSBI結論書(FCCC/SBI/2006/L.3)と本部協定の実施(FCCC/SBI/2006/L.5)に関するSBI結論書が採択された。

UNFCCC 4条8項、4条9項: 後発発展途上国 (LDCs) 関連の議題では、非公式協議の共同議長を務めたSamuel Adejuwon (ナイジェリア)がLDC専門家グループの作業計画についての合意を報告し、結論書(FCCC/SBI/2006/L.2)が採択された。

キャパシティビルディング (条約): コンタクトグループのCrispin D' Auvergne共同議長(セントルシア)が議論を総括した。いくつかの締約国による「総合見直し」と「モニタリング」の一本化の提案を受けて、中国は、この案によると定期的なモニタリング結果は5年に一度チェックするだけということになると指摘した。締約国により結論書(FCCC/SBI/2006/L.15)が採択された。

資金メカニズム (条約): 気候変動特別基金について、コンタクトグループ議長のBubu Jallow (ガンビア)が、経済開発の諸問題を支援するための段階的アプローチが何を意味するのかという点について理解が深まったと進捗状況を報告し、SB 22の文章はSB 25での審議のたたき台となると述べた。G-77/中国は、段階的アプローチは単に1つの段階にすぎないのだと述べた。その後、結論書(FCCC/SBI/2006/L.6)が採択された。

資金メカニズムの第3次見直しについては、Marcia Levaggiコンタクトグループ共同議長(アルゼンチン)がSBI結論書草案の附属書は各国の意見をとりまとめたものであり、SBI 25の交渉のたたき台として活用できるが、今後さらにインプットを受け付けると述べた。その後、締約国が結論書(FCCC/SBI/2006/L.4)を採択した。

政府間会合の準備: COP 12・COP/MOP 2とその後の会議のための準備に関する記載事項やCOP 11とCOP/MOP 1の準備事項の見直しに向けた調整事項に関する結論書(FCCC/SBI/2006/L.9)が採択された。Sanda de Wetコンタクトグループ共同議長(南アフリカ)が、SBI、SBSTA、AWG 及びUNFCCCの対話がすべて次期会期に開催され、特別な事情がある場合を除いて会合はすべて午後6時に閉会となると述べた。

UNFCCC事務局代行(officer-in-charge)のRichard Kinleyは、こうしたプロセスにとり、会合準備に関する結論書は“極めて画期的だ”と述べた。また、事務局は今後、夕方からの会合を予定に入れることを取りやめるとし、どのような場合を「例外的な状況」とするかは、選出された事務局長など(officers)に判断を委ねると述べた。ナイロビで実質的に取り上げるべき諸問題に関する議題・副議題は36事項程あることを考慮し、会合で使える交渉時間を制限することによる影響は大きいことを指摘した。また、Kinley事務局長代行は、この変化は“ショック療法”のようなものだと述べ、締約国が議題の優先順位づけをしていかない限り、時間制限によってプロセスが“麻痺状態”に陥る可能性があるとして“深い憂慮”を示した。

キャパシティビルディング (京都議定書): Anders Turessonコンタクトグループ 共同議長(スウェーデン)は、本件に関する決議は何もなかったと報告した。締約国は結論書(FCCC/SBI/2006/L.16)を採択し、本件をSBI 25に付託した。

遵守: “本議題項目に関する結論書を踏まえ” SBI議長が口頭でCOP/MOP 2に報告するという文言追加を求めたサウジアラビアの提案について議論があり、これを受け入れて、参加者は修正した結論書(FCCC/SBI/2006/L.1/Rev.1)を採択した。

国際取引ログ: (FCCC/SBI/2006/L.8)はコメントなしで採択された。

特権と免責: Paul Watkinson (フランス) 議長が京都議定書の下で設立された機関に携わる個人を保護するための様々なオプションについて事務局がひきつづき検証するよう要請されていると説明し、結論書草案 (FCCC/SBI/2006/L.10)が政府代表により採択された。

非附属書I国の国別報告書: 非附属書I国の国別報告書に関する専門家諮問グループに関する結論書(FCCC/SBI/2006/L.12/Rev.1) がそのまま採択となり、第1回国別報告書の編纂と統合に関しては1点小さな修正を入れて結論書(FCCC/SBI/2006/L.13/Rev.1) が採択された。資金援助の供与に関しては、結論書 (FCCC/SBI/2006/L.7)が採択された。

クロアチアの基準年: Jim Penman (英国)が非公式協議について報告し、参加者はクロアチアの基準年の排出水準に関する結論書とCOP/MOP決定書草案について討議した。草案の文面について合意に至らず、本件(FCCC/SBI/2006/L.17.Rev.1)はSB 25に付託されることとなった。

附属書I国の国別報告書:京都議定書3条2項に基づく、実証可能な進捗に関する附属書I国報告書の統合については、SBIのBecker議長が非公式協議の内容を報告した。ロシアとウクライナは、SB 25ではなくSB 26で本件を検討するよう提案したが、G-77/中国が反対を唱えた。文面に関する合意には至らず、本件(FCCC/SBI/2006/L.14/Rev.1)はSB 25で検討するという事で決定した。

資金メカニズム (京都議定書): 適応基金: コンタクトグループでは適応基金を管理できる組織の招聘に関する文言部分で合意に至らず、プレナリーでも議論継続となった。フィリピンは、G-77/中国の立場から、組織とは“附属書I国に記載された全て”を含むと言及することを提案したが、EU、カナダ、ノルウェーは、“全て”という語を盛り込む案に賛成しなかった。非公式協議の後、“SBIは、附属書に記載された締約国を中心に、関連する国際機関を…組織の分け隔てなく…招聘した”と記載するSBI議長の提案した文言が含まれた結論書草案が合意され、結論書 (FCCC/SBI/2006/L.18)が採択された。その後、G-77/中国、EU、ノルウェー、スイスは、前述の文言に関して声明を発表した。こうした声明をどのように表現するかという手続き上の議論が行われ、各声明文が会合報告書の中に記録されることで合意された。

専門家会合: SBIのBecker議長は、専門家グループCGE、EGTT、LEGの3会合の成果を報告し、適応に関する共同会合実施の可能性を模索すると述べた。

会合報告書: 参加者は会合報告書 (FCCC/SBI/2006/L.1)に合意し、Becker SBI議長が午後7時24分にSBI 24の閉会を宣言した。

科学的・技術的助言に関する補助機関 (SBSTA)

議題/モーリシャス戦略: SBSTA議長のKumarsinghが、モーリシャス戦略をSBSTAの議題に盛り込むかという問題に関する非公式協議の成果を報告し、この項目を議題として含めるよう提案した。ツバルは、本件の審議に反対していたのは2ヶ国だけだったことに触れ、極めて遺憾だと述べた。米国とオーストラリアは、新たな議題設定に繰り返し反対との意見を述べた。締約国は暫定議題を採択した。

研究及び系統的観測: Sergio Castellari (イタリア)共同議長は、コンタクトグループの協議について報告し、SBSTAが本件の結論書(FCCC/SBSTA/2006/L.7)を採択した。

手法問題 (UNFCCC):

バンカー燃料油: 本件に関する結論書が純粋に手続き上のことだと指摘した上で、José Romero (スイス)は、SBSTAで議論されている他の問題と関連しているとの認識から実体を欠いているのではないかと示唆した。EU とノルウェーは、アクションの欠如が残念だと述べた。日本は、国際海事機関(IMO)、国際民間航空機関(ICAO)、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)との連携強化を求めた。その後、結論書 (FCCC/SBSTA/2006/L.5)がSBSTAにより採択された。

ブラジル提案: Jaekyu Lim (韓国) 共同議長が本件に関する協議について報告を行った。サウジアラビアは、IPCCに技術文書の作成を求めるよう提案したが、様々な締約国が反対を唱えた。SBSTAは、結論書 (FCCC/SBSTA/2006/L.13)を採択した。

森林減少: Audun Rosland (ノルウェー) 共同議長が、次回ワークショップのテーマ設定を含めた作業の無事完了を報告した。その後、SBSTAが結論書 (FCCC/SBSTA/2006/L.8)を採択した。

2006年IPCCガイドラインと伐採木材製品: Riitta Pipatti (フィンランド) は、議論について報告し、こうした問題を検討する時間をもっと必要だと指摘した。その後、このニーズを反映させた結論書 (FCCC/SBSTA/2006/L.10)がSBSTAにより採択された。

報告・レビュー・専門家の教育訓練: SBSTAは結論書 (FCCC/SBSTA/2006/L.4)を採択した。

方法論の問題 (京都議定書): HFC-23: Georg Børsting (ノルウェー)議長が、CDM理事会に対するガイダンスについて未だに何ら合意が得られていないことを指摘し、実質的な解決策に関する意見の提出が求められると述べた。中国は、進展がないことに失望感を表明した。その後、本件に関する結論書(FCCC/SBSTA/2006/L.15)が採択された。

イタリア向けの数値: Thelma Krug (ブラジル)が合意が成立したと説明し、参加者が結論書と決定書草案(FCCC/SBSTA/2006/L.6 及び Add.1)を採択した。

政策措置: Normand Trembley (カナダ) が、第2回ラウンドテーブルに関して合意が得られなかったことを報告し、SBSTA 28まで審議を延期すると述べた。この点に関して、結論書 (FCCC/SBSTA/2006/L.11)が採択された。

京都議定書2条3項 (悪影響): Kumarsingh議長は、非公式協議で何らの合意もなかったことを報告した。サウジアラビアは何ら進展がなかったことに失望の意を表した。出席者は、結論書 (FCCC/SBSTA/2006/L.2)を採択した。

国際機関との連携: オゾン層と気候系に関するIPCCの特別報告書や(FCCC/SBSTA/2006/L.9)、他の関連条約との連携、科学的機関と国連組織などに関し、短い結論書(FCCC/SBSTA/2006/L.14)が採択された。SBSTA調整役のHalldor ThorgeirssonがCSD 15とSB 26との間のオーバーラップについて指摘した。

その他の問題: 参加者は、“温室効果ガス・データインタフェース (greenhouse gas data interface)” に関する結論書(FCCC/SBSTA/2006/L.12)と京都議定書8条(情報の検討)に基づく、専門家査読チームのメンバー向けのトレーニングプログラムに関する結論書 (FCCC/SBSTA/2006/L.3)を採択した。

アドホックワーキンググループ (AWG)

AWGプレナリーが午前零時少し前に開催された。これは少人数のグループの中で木曜終日に延長して行われた非公式協議を受けて行われたもので、数名の参加者とAWG議長のMichael Zammit Cutajarが午前中に配布された今後の作業計画に関する文書(FCCC/KP/AWG/2006/L.2)について討議した。

深夜のプレナリーを開会したZammit Cutajar議長は、非公式協議の中で改訂された文面のあらましを説明した。AWGの焦点;プロセスに弾みをつけること、約束のために実施する必要がある作業; 第1約束期間の実施のレビュー、ナイロビで開催予定のワークショップ、ワークショップの作業構成、2007年の通常会期中に行うワークショップの説明、及び次期会合でAWGの作業内容を詰めるといった内容があったと述べた。また、AWGの今後の作業に関連したトピックを指示する大まかな議長リストも含まれ、その文章が本会合の報告書の一部となると指摘した。

スイスは、AWGの今後の作業をすべての締約国にとって透明性をもって、オープンにしていくための文言を付加するよう提案した。サウジアラビアは、すべてのUNFCCC締約国にオープンにすべきだと提案した。Zammit Cutajar議長は、第2回AWG会合でこれらの問題を取り上げるよう提案し、参加者が修正なしで報告書草案(FCCC/KP/AWG/2006/L.2/Rev.1)を採択した。その後、会合報告書 (FCCC/KP/AWG/2006/L.1) が採択され、Zammit Cutajar議長が午前12時20分に閉会した。

コンタクトグループ

適応: 適応に関する5カ年作業計画に関する非公式協議は終日深夜まで行われ、協議結果は金曜のSBSTAに報告される予定。

廊下にて

AWGが最終作業を終えた木曜深夜、ようやく出席者の多くがほっと安心した様子になった。長丁場の非公式協議の後、AWG議長のMichael Zammit Cutajarは、附属書I国のさらなる約束に関する合意に向けた“速やかなる作業”に関する新たな文言を含め、妥協案をとりつけられ、初回の会合をうまく舵取り出来た。多くの参加者がこの結果に満足したようだが、今回の取り決めを決着させた小グループの最後の交渉に参加しなかった者は金曜の朝に文章をしげしげと吟味することになろう。深夜廊下で交わされた会話によると、最後の小グループの交渉には主要な京都議定書の非批准国は参加しなかったが、その他の附属書I国と非附属書I国の排出大国がいくつか参加していた。

ENBサマリー・分析: SB 24とAWGに関する *The Earth Negotiations Bulletin* のサマリーと分析(英語版)は2006年5月29日(月)にダウンロード可能。<http://www.iisd.ca/climate/sb24/>

NEDOからの委託により GISPRI 仮訳